



## CT検査を受ける患者さんへ

あなたの病気を診断する為に、CT 検査を予定しています。病気の状態を詳しく調べて治療方針を決めるための大事な検査です。

CT の検査ではエックス線を使用するため、放射線被ばくが生じます。被ばくの線量は、検査する部位によって異なり、頭部 CT では通常、3 mSv(ミリシーベルト)以下、胸部～骨盤部 CT では 20mSv 程度とされています。

なお、年間に自然から受ける放射線被ばくは、日本では平均 2.1mSv といわれています。

妊娠中の方が CT 検査を受けると、胎児が影響を受ける可能性があり、その影響は妊娠の時期によります。受精から妊娠 15 週までの間では、奇形や精神発達遅滞などを生じる可能性があります。通常の人では、上腹部 CT では 12 回分、骨盤部の CT では 4 回分の被ばくを 1 度にしなければその線量には達しません。また、頭部 CT ではほとんど影響はありません。

このようなリスクと、適切な診断を得ることの必要性を考慮して、主治医は CT 検査を行うことを決定いたします。

県立広島病院では、エックス線装置による被ばく線量について、定期的に線量計による計測を行い、放射線量を管理しているとともに、被ばく線量を下げる努力をしており、全国標準を下回る被ばく線量に抑えています。

表 1 CT 検査のおよその被ばく線量

検査部位	一般的な被ばく線量 (mSv)	県立広島病院での平均的被ばく線量 (mSv)
頭部 (単純)	2.8	2.7
胸部 (単純)	7.7	5.9
腹部～骨盤部 (単純または造影のみ)	15.0	7.9
胸部～骨盤部 (単純または造影のみ)	19.5	10.6
肝臓ダイナミック	27.0	19.6
冠動脈 (造影)	19.6	10.9

表 2 身の回りの放射線：診断で受ける放射線量 (環境省ホームページより抜粋)

検査の種類	実際の被ばく線量
一般撮影：胸部正面	0.06 mSv程度
エックス線CT検査	5-30 mSv程度 <sup>*1</sup>
核医学検査	0.5-15 mSv程度 <sup>*2</sup>
P E T 検査	2-20 mSv程度 <sup>*2</sup>

\* 1 検査部位や方法、体格によって線量が異なります。

\* 2 使用する放射線医薬品ごとに線量が異なります。